第十講　実践練習(3)

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ（設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。

子*路為蒲*宰。為水備与其民修溝*洫。以民之労煩苦也、人与之一*箪食一*壺漿。①孔子聞之、使子*貢止之。②子路忿然不説、往見(X)孔子曰、由也、③以暴雨将至、恐有水災。故与民修溝洫、以備之。而民多乏餓者。是以(A)箪食壺漿而与之。夫子(B)使賜止之、是夫子止由之行仁也。夫子以仁教、而禁其行、由不受也。孔子曰、汝以民為餓也、④何不白於君発倉廩、以賑*之。而私(C)以爾食饋之、是汝明君之無恵、而見(Y)己之徳美。汝速已、則可。不、則汝之見(Z)罪必矣。

（『孔子家語』より）

【注】
＊子路　孔子の門人。名は由。
＊蒲宰　衛の国の蒲の長官。蒲は町の名。
＊溝洫　田畑の間に掘った溝。
＊一箪食　竹で作った器に盛った飯。
＊一壺漿　壺に入れた飲み物。
＊子貢　孔子の門人。名は賜。
＊賑　救う。

問一　波線部Ａ「是以」Ｂ「夫子」Ｃ「私」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで記せ。

Ａ＝　　　Ｂ＝　　　Ｃ＝

問二　二重傍線部Ｘ～Ｚの「見」と同じ意味で用いられている「見」を含む文を次の中からそれぞれ一つ選べ。

ア　信而見レ疑、忠而被レ謗。
イ　心不レ在レ焉、視而不レ見、聴而不レ聞。
ウ　未二嘗見レ歯而笑一也。
エ　彗星見二于東方一。
オ　孟子見二梁恵王一。

Ｘ＝　　　Ｙ＝　　　Ｚ＝

問三　傍線部①「孔子聞之、使子貢止之」とあるが、孔子がこのような処置をした理由として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　溝洫の管理は専門家集団に任せるべきであるから。
イ　子路が主君によって処罰されることが予想されたから。
ウ　安易に民に恩恵を施すと、民の自立する心が育たないから。
エ　民と一緒に食事をすることは礼の規定に違反するから。
オ　間もなく激しい雨が降ってくることが予想され、危険だから。

問四　傍線部②「子路忿然不説」とあるが、子路はなぜそのような感情をいだいたのか。その理由を、次の形式に従って記せ。

子路は［　　　　　　　　　　　　］と考えたから。

問五　傍線部③「以暴雨将至」の書き下し文を記せ。

問六　傍線部④「何不白於君発倉廩、以賑之」の意味として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　民を救済するためには、主君の慈愛に何とかしてすがって穀物倉を開く必要がある。
イ　穀物倉を開いて民を救済するため、どうやって主君に身の潔白を示せばよいのか。
ウ　なぜ主君のもとに役人を派遣して穀物倉を開けてもらい、民を救済しないのか。
エ　民を救済するためには、どこの穀物倉を開くか主君に建言する必要がある。
オ　どうして主君に事情を申し上げて穀物倉を開き、民を救済しないのか。

二　次の文章を読み、あとの設問に答えよ。ただし、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

季(注1)文子ⓐ相(注2)宣成、無衣帛之妾、無食粟(注3)之馬。仲(注4)孫它諫曰、「子為魯上卿、ⓑ相二君矣。妾不衣帛、馬不食粟。人其以ⓒ子為愛、且不華国乎。」文子曰、「吾ⓓ亦願之。然吾観国人、其父兄之食粗而衣悪者ⓔ猶多矣。吾是以不敢。人之父兄食粗衣悪、而我美妾与馬、ⓕ無乃非相人者乎。且吾ⓖ聞以徳栄為国華、不聞以妾与馬。」文子以告孟(注5)献子、献子囚ⓗ之七日。自是子(注6)服之妾、衣不過七(注7)升之布、馬餼(注8)不過稂(注9)莠。文子聞之、曰、「ⓘ過而能改者、民之上也。」ⓙ使為上大夫。

（『国語』）

（注）
1　季文子――魯の国の人。
2　宣成――宣公・成公。
3　粟――穀物。
4　仲孫它――魯の国の人。
5　孟献子――仲孫它の父。
6　子服――仲孫它のこと。
7　七升之布――粗末な布。
8　餼――まぐさ。馬の飼料。
9　稂莠――いぬあわと、はぐさ。ともに雑草。

問一　傍線部ⓐⓑ「相」に共通する意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　面会する　2　宰相となる　3　相談する　4　愛想がよい　5　諫言する

問二　傍線部ⓒ「子」、ⓗ「之」はそれぞれ誰を指すか。最も適当なものを、次の組合せの中から一つ選べ。

1　ⓒ　宣成　ⓗ　国人
2　ⓒ　子服　ⓗ　仲孫它
3　ⓒ　季文子　ⓗ　仲孫它
4　ⓒ　季文子　ⓗ　孟献子
5　ⓒ　孟献子　ⓗ　宣成

問三　傍線部ⓓ「亦」、ⓔ「猶」の読み方を、送り仮名も含め、平仮名で記せ（現代仮名遣いでもよい）。

ⓓ＝　　　　ⓔ＝

問四　傍線部ⓕ「無乃非相人者乎」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　無は乃ち相ひ人たる者に非ざらんや
2　無は乃ち人に相たる者に非ずや
3　乃ち相ひ人たる者に非ざる無きなりや
4　乃ち人に相たる者に非ざる無からんや
5　人と相せざる者は乃ち非ざる無からんや

問五　傍線部ⓖ「聞以徳栄為国華」は、「徳栄を以て国華と為すを聞くも」と読む。これに従って返り点をつけよ（送り仮名は不要）。

聞　以　徳　栄　為　国　華

問六　傍線部ⓘ「過」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　すごして　　2　とおりて　　3　すぎて
4　よぎりて　　5　あやまちて

問七　傍線部ⓙ「使〻為二上大夫一」について、上大夫になったのはだれか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　仲孫它　　2　孟献子　　3　季文子　　4　宣成　　5　上卿

問八　本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

1　魯の国は繁栄して、人々は豪華な食事をしていた。
2　季文子は質素な食事をしたが、馬のえさは粟だった。
3　季文子は「馬こそ国の華である」と、仲孫它に答えた。
4　仲孫它は季文子に進言したが、後に它自身が改心した。
5　仲孫它は自分の意見に固執し、季文子を追放した。

復習問題　第十講

①　「是ヲ以テ如ク(レ)是(かく)ノ其レ急ナリ」の現代語訳として、最適なものを次の中から選べ。

ア　こうして成果をあげるために実行を急いだのである。
イ　従って顔子も同じことをしようとして馳せ参じたのである。
ウ　このように自然の災害の予知能力を高める努力をしたのである。
エ　それ故にこのように民を救うことを急務として力を注いだのである。
オ　これをもとにして政治家がいかなる仕事をすべきか急ぎ点検したのである。

②　「於(レ)是　未(レ)至(二)単　父(一)、」の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　これによりいまだ単父に至らざるに、
イ　これにおいていまだ単父に至らざるに、
ウ　ここにおいていまだ単父に至らざるに、

③　「以　傲　世　見　疾」のひらがなのみの書き下し文として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　よにおごるをもってにくまる。
イ　もってよをかろんじてやまいをみる。
ウ　ほこるをもってよにあらわるることはやし。
エ　もってよのにくむをみるをかろんず。

【第十講】

〔模範解答〕

一

問一　A　ここをもって　B　ふうし　C　ひそかに

問二　X　オ　Y　ウ　Z　ア

問三　イ

問四　孔子は普段、仁愛を行うように教えているのに、自分が仁愛を行おうとするのを止めるのは、矛盾していて納得がいかない

問五　暴雨の将に至らんとするを以（っ〔つ〕）て

問六　オ

二

問一　2

問二　3

問三　d　また　e　なお〔ほ〕

問四　4

問五　聞㆘以㆓徳栄㆒為㆗国華㆖

問六　5

問七　1

問八　4

〔現代語訳〕

一

子路が蒲の長官となった。水害の備えの為に蒲の人民と田畑の間に掘った溝を修理した。人民が働いて疲れて苦しんでいるので、一人一人に竹で作った器に盛った飯と壺に入れた飲み物を与えた。孔子がこれを聞いて、子貢にこれを止めさせた。子路は怒って機嫌が悪くなり、孔子にお目通しをしに行って言うことには、「私は、暴雨が今にも来そうなので、水害があることを恐れています。だから人民と溝を修理して、これで暴雨に備えているのです。だが、人民に貧しく飢えている者が多いのです。だから器の飯と壺の飲み物を人民に与えているのです。先生は子貢にこれを止めさせたのは、先生が、私が仁愛を行うのを止めているのです。先生は仁愛を教えているのに、私が仁愛を行うのを禁じるのは、私は受け入れられません」と。孔子が言うことには、「お前が、人民が飢えていると思うのならば、どうして主君に事情を申し上げて穀物倉を開き、人民を救済しないのか。なのに、こっそりとお前の食物を人民に贈るのは、お前が主君が恵みがないことを明らかにして、自分の徳の美しさを示しているのだ。お前がすぐに止めれば、よい。そうしなければ、お前が処罰されるのは明らかだ」と。

二

季文子が宣公と成公の宰相であったが、絹を着た下女もおらず、穀物を食べる馬もいなかった。仲孫它が（季文子に）諫めて言うことには、「あなたは魯の上卿となって、二人の君主の宰相である。下女は絹を着ておらず、馬は穀物を食べていない。（一般）人はそもそもあなたが（お金を）惜しんでいると考え、さらに国を華やかにしていないのではないか」と。季文子が言うことには、「私もまたこれ〔国の繁栄〕を願っている。しかし私は国民を観ると、その父兄は粗末なものを食べ粗末な服を着ている者がやはり多い。私はだから決して（絹を着させたり穀物を馬にやったりなどの贅沢は）しないのである。国民は粗末なものを食べ粗末なものを着て、私は下女と馬を贅沢に扱うのは、それは国民のための宰相である者ではないのではないか。さらに私は徳と光栄は国の最高のものだと聞いたことはあるが、下女と馬が国の光栄であるとは聞いたことがない」と。季文子は孟献子に告げると、孟献子が仲孫它を捕えること七日間。それ以降、子服〔＝仲孫它〕の下女は、粗末な布で織ったものにすぎず、馬の飼料はいぬあわとはぐさ〔＝雑草〕にすぎない。季文子はこれを聞いて、言うことには、「過ってても改めることができるものは、国民の上に立つ者である」と。（季文子は仲孫它を）上大夫に任命した。

復習問題解答　第十講

〔解説〕

① 「是以」は「ここヲもつテ」と読み、「だから・こういうわけで」の意味。「如是」は「かくノごとシ」と読み、「このようだ」の意味。よって、この二つの解釈がきちんとできているエが正解。

② 「於是」は「ここニおいテ」と読み、「そこで」の意味。よって、正解はウ。

③ 「以」は基本返読文字で「(〜ヲ)もつテ」と読む。よって、イとエは削る。「世見疾」の語順で「よにあらわるることはやし」と読むことは不可（この場合の用言「見」が、補語「世」の下にあることになり、間違いだと判断できる）。よって、正解はア。訳してみてもおかしくない。ちなみに「見」は他動詞「疾」（にくむ）の上にあるので、「受身」の助動詞として「る」と読んでいる。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ ア